



## こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和2年2月18日(火)

## 第14回のしろ市民まちづくりフォーラム開催 編

のしろ市民まちづくりフォーラムは今年度で14回目を迎え、能代山本地域を代表する歴史的施設である旧料亭「金勇」での開催となりました。今年度は「線」としての日本風景街道と「点」である道の駅が連携して魅力ある地域づくりをしていくためには、これから何が必要なのかを考えました。

基調講演は国土交通省道路局環境安全・防災課長 渡辺学氏。日本風景街道について設立経緯・現状、世界や日本各地のルート事例など幅広くご紹介いただきました。登録ルートの中には民間企業と連携し、広報やスタンプラリーなど実施することで、ルート周遊を促進している事例や道路協力団体制度を活用し、オープンカフェの実施や自動販売機売り上げの一部から活動収益を確保している事例など参考になるものばかりでした。

話題提供では、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ代表 桐木茂雄氏、道の駅北前船松前駅長 長谷川幸輝氏から先進的な取組を行っているシーニックバイウェイ北海道や道の駅の取組についてご講演いただきました。

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイでは、道の駅と連携し、来訪者へ周辺の飲食施設や入浴施設、宿泊施設など情報提供を行うとともに、クーポンを設置し、持去枚数の調査や追跡調査を行うことで、来訪者のニーズを把握する取組などとても興味深く、参考になりました。また、ルート上の景観が良く、ホスピタリーの高いカフェをシーニックカフェとして登録し、その場所で情報交換や勉強会を行う「シーニックカフェミーティング」など数多くの事例をご紹介いただきました。

道の駅北前船松前ではシーニックとの連携で、地域の風景を堪能してもらうため、沿道へ簡易デッキの設置を行う「シーニックデッキ」の取組や、安全な駐車場とそこから歩いて行けるビュースポットを登録する「ビューポイントパーキング」の取組などご紹介いただきました。

第14回のしろ市民まちづくりフォーラムでも昨年に引き続き、パネル展示の実施や能代市長、八峰町長、三種町長にご参加いただき、盛大な開催となりました。日本風景街道の現状や今後について学び、先進的な取組を行っているシーニックバイウェイ北海道から多くのヒントを得ることができ、のしろ白神の道発展への一歩となりました。



▲旧料亭「金勇」会場



▲国土交通省道路局環境安全・防災課長 渡辺 学氏



▲釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ 桐木 茂雄氏



▲道の駅北前船松前駅長 長谷川 幸輝氏



▲パネル展示の様子

文：東 洸成